

マナビィ

2005/No.53
文部科学省 編集



11

撮影支援ケーススタディ

Cより民間主導型の方が得意な時があります。また「公共施設での土日夜間撮影に際する許諾申請方法」は民間主導型のFCより行政主導型の方が効率良く手配出来る時があります。

図1 支援の役割図



「がんばっていきまっしょい」
平成一七年七月〜九月まで放映された

ドラマ「がんばっていきまっしょい」は愛媛県松山市の高校を舞台に女子高生がポルト競技に青春をかけた三年間の物語でした。県内での撮影日数が七〇日間という長期ロケには自治体の他、地元の方々、学校関係者、エキストラの方々など、のべ二五〇人以上が協力してくれました。

物語で重要なロケ地となったのが「松山第一高校」という部室です。まず、えひめFCが要望の整理を行い「艇庫を建てるのにふさわしい海岸探し」から支援を始めました。監督からは「夕陽の美しい場所に艇庫を建てたい」という要望があり、複数の海岸を提案しましたが「愛媛らしさを強調したい」と話が進み、夕陽が美しいというのは「説明不要な瀬戸内海」と島々に沈む夕陽」と至りました。北へ西へと探した結果、艇庫は大三島町(今治市)の台(うてな)海岸に建てることになりました。海岸を探して一か月、地域の魅力を新たに発見した時でもありました。

「松山第一高校」は主人公たちが通う高校です。この物語は県立松山東高等学校が舞台なので撮影の多くを検討しましたが、周辺の交通事情や撮影スケジュールが行き交う

ルなどから、他高校にも撮影協力を依頼する必要がありました。市内の高校を調べ校内の雰囲気や交通事情などから県立松山北高等学校に決定しました。校門前には路面電車が走り、中庭も緑が多く東高校から一〇分という距離も含め最適なロケ地になりました。学校の撮影には県教育委員会や学校関係者らの快い協力体制があり、東高校、北高校の両校にて全て行いました。

えひめFCが「艇庫を建てる場所」「高校のロケ地選び」に奔走する間、AFNは「支援事務局機能の提供」「エキストラの確保」「ロケ現場での支援準備」などに奔走していました。例えば「生徒役」「通行人役」など多くを募集し、八〇〇名以上の問合せ・受付窓口となりました。

また、夜遅い商店街での撮影時は、二〇名のメンバーが行き交う

「松山第一高校」は主人公たちが通う高校です。この物語は県立松山東高等学校が舞台なので撮影の多くを検討しましたが、周辺の交通事情や撮影スケジュールが行き交う

また、夜遅い商店街での撮影時は、二〇名のメンバーが行き交う

また、夜遅い商店街での撮影時は、二〇名のメンバーが行き交う

また、夜遅い商店街での撮影時は、二〇名のメンバーが行き交う

お問い合わせ
えひめフィルム・コミッション
(愛媛県経済労働部観光交流課内)
〒790-8570
愛媛県松山市一丁目4-4-2
TEL 089-912-2491
FAX 089-941-2459
E-mail ehime-film@pref.ehime.jp
URL http://www.pref.ehime.jp/ehimefc/index.jsp

NPO法人アジア・フィルム・ネットワーク
〒790-0846
愛媛県松山市道後北代3-3
TEL・FAX 089-923-8160
E-mail a.f.n@sky.quolla.com
URL http://www.asiafilm.info/index.html



愛媛県立松山北高等学校での撮影風景

Closeup

事例クローズアップ

フィルム・コミッション活動を通し地域の魅力再発見・再評価

えひめフィルム・コミッション

愛媛でのフィルム・コミッション活動
国内外の映画・映像作品を誘致・支援するフィルム・コミッション(以下:FC)は、一九四〇年代に米国で始まり日本では二〇〇〇年に始まりました。FCは現在、全国に八二か所(平成一七年一〇月七日現在、全国FC連絡協議会正会員数あり、今や邦画制作の七〇%に協力しています)。

Closeup

事例クローズアップ

ユニークな地域活動
AFNはFC活動を地域に浸透させようと、子どもたちの豊かな想像力・発想力に着目し「子ども映画祭」という地域の魅力を物語化するワークショップを平成一四年から続けています。これは小学生を対象にデジタルカメラを用いた映画と同じ制作手法で八枚の画像から物語を創作する企画で、今夏に四回目をを行いました。子どもたちの豊かな想像力・発想力の

子ども映画祭の様子

通行人の流れを一時的に抑制したり、周辺店舗への協力をお願いをしたりなど、撮影隊だけでは手がまわらないロケ現場を支援し、撮影を円滑に進めました。AFNのメンバーは全員が本業を持ち(二〇代〜五〇代の三〇名で構成)、余暇時間を活動に充てています。時間調整が大変な時もありますが、このような支援・応援団体が地域にあると撮影はより円滑に進むと思います。

育みを通し地域の魅力を発見・再評価している。

子どもたちの自主性を尊重し、物語創作に際する決定権は子どもたちが持っている。

各グループにナビ(子どもたちの好奇心を引き出す役目)を配置し、ナビは大学のインターンプログラムを活用している。

物語創作の手順は次の通りです。

- ①グループに分かれて地域を散策し「シナリオ」物語の素材集め・調査」を行います。
- ②シナリオで見た地域の魅力や素材をアイデアと組み合わせ創作開始です。
- ③制作は「絵コンテ」を用い「起承転結」を基本にグループ内で物語を話し合います。
- ④物語の「流れ」が出来たら「監督」「撮影」「脚本」「俳優」などの役割を決めます。
- ⑤散策を再び行い、物語にふさわしい「ロケハン」撮影地選び」と「撮影」を行います。
- ⑥撮影画像をパソコンに取り込み、物語を構成する八枚の画像を取捨選択(編集)します。
- ⑦物語を完成させたら、発表練習や演出方法などの「発表方法」を考えます。
- ⑧集まった保護者や関係者を前に、自分た

また、地域の魅力は見えるものだけではなく、「見えない」見えない魅力も「方言」「郷土の味」「伝統芸能」「昔話」などの無形文化は「物語の要素」として作品に影響を与える場合があります。「こんな所がロケ地なの? そんな物が役立つの?」と思っているのは実は自分だけで、映像制作者たちから見ると地域は「素材の宝庫」なのです。

今日から出来るFC活動

それでは周辺にある「地域の魅力」ロケ候補地を探る際に役立つ視点を紹介します。これらの視点は映像制作者が日頃から探しており、皆さんでも見つけられると思います。見つけた場合は最寄りのFCに相談するのも良いでしょう。あなたの紹介した場所がロケ地になるかもしれないですね。

- ①地域固有の風景・建造物(代替が出来ない)
- ②何か似ている・見えるもの(富士山のようななど)
- ③特殊な場所・施設場所(ダムや室内、私有地など)
- ④明治・大正・昭和初期の風景や建造物
- ⑤地域の無形文化や伝統芸能(舞や神事など)
- ⑥地域の風物詩(お祭り、緑日、お盆など)
- ⑦日常の風景や建造物(路地、裏道、階段など)

いかがでしょうか? 地域の魅力とは遠くにあるのではなく、身近に存在します。職場と家の間でもロケ候補地は見つかるかもしれません。今日から出来るFC活動とは、「自分の地域に何があるのか?」などを「知る」ことから始まります。FC活動を通して地域の魅力再発見・再評価するのは「地域を知る」楽しさを知った読者のあなたです。

(えひめフィルム・コミッション 泉谷 昇)

お問い合わせ
えひめフィルム・コミッション
(愛媛県経済労働部観光交流課内)
〒790-8570
愛媛県松山市一丁目4-4-2
TEL 089-912-2491
FAX 089-941-2459
E-mail ehime-film@pref.ehime.jp
URL http://www.pref.ehime.jp/ehimefc/index.jsp

NPO法人アジア・フィルム・ネットワーク
〒790-0846
愛媛県松山市道後北代3-3
TEL・FAX 089-923-8160
E-mail a.f.n@sky.quolla.com
URL http://www.asiafilm.info/index.html